

「ふるさとウエディング」の魅力を売り込む
ブライダルプロデューサー

ふじた のりこ
藤田 徳子さん



結婚式は、自分と相手は何者であるかを見つめ直す機会だと思
う。「2人らしさ」を追求した
ら、奇抜な演出でも豪華な飾り
もなく、生まれ育った地でルー
ズを再確認する「ふるさとウエ
ディング」に行き着いた。

料理も地元産にこだわって、高
松市の大名庭園「栗林公園」で演
出した式は「いい結婚式」コンテ
スト(ブライダル総研主催)の準
グランプリを獲得した。10年前か
ら香川県に申し入れ、今春ようやく実現した。

香川は新郎の出身地。当初、東
京育ちの新婦には抵抗があった
が、当日は行き交う人に祝福の言
葉をかけられ「人が優しい。香川
っていい所」と愛着が湧いたとい
う。

自身の結婚式でメイクも引き出
物も「皆さんこうしています」と
押しつけられ違和感を覚えたの
が、ブライダルプロデューサーの
出身。40歳。

道を選ぶぎっかけだった。広告代
理店での経験を生かし、個性を表
現できる式をつくりたいと25歳で
創業した。

式の打ち合わせでは「あなたっ
て何？」と問いかける。「お互い
の歴史を棚卸しし、夫婦の価値観
をつくり上げる作業」と考えるか
らだ。会社の応接間にはスリッパ
を用意し、くつろいだ雰囲気の中
で自らをさらけ出してもらう。

お世話した夫婦は結婚式後も
「ねえちゃん」と慕い集まってく
る。そんなカップルとの語らいが
何よりの励みという。

瀬戸内海の島々。究極のルー
ズ「家」。次はどの「ふるさと」で
結婚式を開こうか。おとぎ話の形
はカップルの数だけある。岡山県